

作品の閲覧

2026-4-23

『虚空蔵の峯』

何でも読もう会

書物名	『虚空蔵の峯』	開催日		出席者	
作者	飯嶋 和一	4月23日		4名	
<作品の内容等> <p>江戸時代の裁判劇を描いた歴史小説です。宝暦4年(1754年)～宝暦9年(1758年)にかけて発生した「郡上一揆」を題材にしています。併せて同時代の「石徹白騒動」(いとしろそうどう)も描かれています。</p> <p>「郡上一揆」は年貢増収を目的にした藩の新税法導入に、農民の幕府への直訴に及ぶ状況やその対応について具体的に書かれています。</p> <p>また、出訴のために江戸に出てくる人を泊め、裁判の手伝いもする公事宿・秩父屋半七の考え方も描かれています。</p> <p>全体を通して、権力に翻弄される農民が自分の意思を貫こうとする姿と、それに対抗する形で権力に従う人の存在も描かれています。</p> <p>講釈師 馬場文耕の実録講談が民衆に受け、それがために捕らえられ獄門にされた様子も書かれています。</p> <皆さんの感想意見> <p>主な意見等</p> <ul style="list-style-type: none">・この小説の展開はドキュメンタリー記事のように淡々と追っかけていて、読みやすさと臨場感がありました。・藩主の圧政に苦しむ農民が蜂起せざるを得ない状況が解りました。・江戸時代の税制や幕府への訴え方法の「駕籠訴」「駆込訴」「目安箱」についての知識がなかったが、勉強になった。・講釈師 馬場文耕には感動しました。応援したのに獄門とは・ <p style="text-align: right;">等々</p>					